



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町登田1000-2

毎週日曜日発行

インターネットでも
ご覧いただけます

<http://www.jcp-tsk.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木 康子
42-2462

終戦の日、街頭から

8月15日、日本共産党市議団は平和への決意を込めて炎天下の街頭に立ちました。訴えの概要を紹介します。

日本共産党市議団

きょうは62回目の終戦記念日です。あの戦争で、3百万人の日本国民、2千万人以上のアジア諸国民の命が奪われました。日立のシビックセンターで日立市平和展が開かれて

います。展示資料によれば、当時、軍需産業の工場でもあった日製の海岸工場が標的とされ、昭和20年の6、7月に3度の大空襲で労働者や市民など1500人の命が奪われたとあります。



平和の決意

炎天下、62年目の8月15日に街頭から平和への決意を訴える福田明、鈴木康子両市議(磯原サンユー前)



また北茨城市においては、戦地での戦没者数は1036名と記録されています。そうした甚大な犠牲の上に戦後の日本は再出発しました。その原点が、「二度と戦争はしない」「主権は国民にある」等々を謳った日本国憲法です。

これを変えようとしているのが安倍首相です。先月の参院選挙で自民党は、公約の第一に、「戦後レジームからの脱却」を掲げました。その結果、歴史的な大敗という審判が下されました。この大敗の原因として、年金・増税・事務所費の問題などが大きく作用したのは事実です。同時に、安倍首相が掲げる「戦後レジームの脱却」の行くつく先が、憲法9条を変えて、イラク戦争のようなアメリカが海外でおこなう戦争に日本も一緒に参加して戦う体制であり、戦前の日本への回帰であることを、多くの国民が感じ取ったからにはほかなりません。

いま安倍内閣は、総理大臣を先頭に「過去の戦争は正しかった」「従軍慰安婦の

強制はなかった」という主張を重ねています。これが、いかに世界の流れと常識から逆行し、孤立しているか



平潟港「主水祭り」風待ち湊コンサート

8月12日、平潟港の特設会場で「主水祭り」が開かれ、地元の市民はじめたくさんの人出でにぎわいました。写真は、平潟町出身のシンガーソングライター・大塚利恵さんのステージ。

8月3～15日、シビックセンターで開かれた「日立市平和展」。展示の最後に、アンケートとともに置かれた1冊の本『子どもにつたえる日本国憲法』が目を引きました。



は明らかです。米下院本会議ではほぼ満場一致で「従軍慰安婦の強制」に対して、日本政府が正式に謝罪するよう求めたことはその象徴的な出来事です。日本共産党は、戦前の暗い時代から命がけで戦争反対をつらぬき通してきた党として、二度と戦争をしないと誓った憲法9条を守り抜くために全力をつくします。どんなことがあっても子どもたちや孫たちに、平和な日本を引継ぎたいと決意を強くするものです。